

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570508523		
法人名	社会福祉法人本荘久寿会		
事業所名	グループホーム望海の家		
所在地	秋田県由利本荘市浜三川字小山口20番地		
自己評価作成日	令和5年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の思いや希望に添って支援することに力を入れており、日常の中でも話を聞き要望を取り入れるよう努めている。また、毎月個別支援を行い個人が主役になれる場面を作っている。家族との繋がりも大切にし面会時や必要時に状態報告し情報の交換や共有している。LINEでオンライン面会やメッセージ交換、写真を送ったり行っている。毎月、望海の家便りを発行し、職員から日常の様子を手紙し伝えている。現在は、コロナの影響にてなかなか開催できずにいるが、地域に向き認知症カフェを行った実績がある。事業所内外も広々しており散歩やお花見など季節ごとに楽しむ機会を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日々、一人ひとりの思いや希望の把握に努め情報を共有しながら、スーパーでの買い物、入居前に住んでいた方面へのドライブ、小学生のサッカーの試合観戦など、ここ数年出来なかった個別の外出支援が実施されています。6月に服薬ロボットが導入され、職員の負担軽減、薬剤師との連携にもつながっています。施設内の人工池では鯉が、また猫も飼われており癒しの空間が作られている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ毎年事業所の目標を掲げ、その目標に基づき支援している。また、目標を見える位置に提示し職員間で共有している。	理念を基に全体会議等で前年度の反省を踏まえて各ユニット毎に望海の家の目標を作り、実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はないが、近所の方と挨拶を交わしたり、町内会長や民生委員が運営推進会議の委員になっており情報交換ができています。	隣接する同法人の施設の夏祭りに参加され、知人と挨拶をしたり認知症サポーター養成講座の講師をされることもあり、交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の公民館で認知症カフェを開催した実績あり、今後も続けていきたい。また、包括支援センターより依頼を受け中学校に出向き認知症サポーター養成講座の講師を行ったりしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催し入居者の近状報告や事業所の活動状況、検討事項等話し合いサービスの向上に努めている。また、職員も交代で出席できるようにしている。	町内会長、包括職員、家族代表(数名)が出席され話し合い、サービスの向上につなげています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センターの出席あり、情報交換している。また、認知症サポーター養成講座を包括支援センターと協力し開催している。	必要に応じて窓口に出かける等、協力関係を築くようしています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待について指針やマニュアルがあり身体拘束・虐待防止委員会を中心に勉強会や指針・マニュアルの見直しを行っている。職員同士でも拘束や虐待の意識が高まり不適切ケアになっていないか話し合っている。	同法人内での職員の交換研修等でもとりあげられ、拘束等のない支援に取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用している利用者はいないが、研修会等に参加し学ぶ機会を設けている。また、法人内外で情報交換を行っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時や入居時、改定時など必要時には利用者や家族に書面等を活用し説明を行い、疑問や不安の解消に努めている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	目安箱を設置している。また運営推進会議や面会時に意見や要望を聞き運営に反映している。	毎月の本人の写真入りのお便り等で、意見があった時は運営に反映されています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	職員との面談の場や、日々の会話で処遇改善についての意見や提案を聞き、会議等で反映している。	職員の要望でリフト付きの車が導入される等の事例もあります。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会、勉強会、研修会等に参加、他施設に見学に行き交流やネットワーク作りをしサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人の話を聞き、困っていること不安なことなどを把握し職員間で情報を共有し統一したケアを行い、安心して生活が送れるよう努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問合せや入居時に家族の要望や不安なことを伺い安心してサービスを利用できるよう努めている。また、いつでも連絡できる関係づくりに努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の知恵を入居者から学び職員は自立支援に努め助け合って生活している。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に本人を支えていけるよう情報交換を密にしている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	家族との外出や外泊も行っている。本人持ちの携帯電話があったり、電話したいときは出来るよう支援している。	利用前からの理・美容院に出かけたり、同級生との面会、利用前に手芸の先生だった利用者に当時の生徒が訪ねてきたりする等、馴染みの関係が途切れないように支援しています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、食事の席を考慮したり、ソファを設置し皆が集まって寛げる場所を作り、利用者同士が支えあえるよう支援している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切ることなく付き合えるよう体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話等からそれぞれの思いや希望を聞き出来るだけ意向に添えるよう努めている。	日常の関わりの中や、入浴、排泄介助、外出時に話してくれる事もあり、内容は全体会議や申し送りノートで共有し実践につなげています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報をもとに利用者・家族との話し合いを通して、これまでの経過など把握するよう努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	本人の意向を担当者会議に反映している。家族には説明し意見や要望を聞いている。現状に即した個別介護計画になるよう作成している。	カンファレンス等で話し合い、プランを把握しながら支援、記録されています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	毎日、記録を記入し日々の様子やケアの実践、気づき等の情報交換や共有を行い介護系計画の直しを行っている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの床屋に出掛けたり買い物に行ったり豊かな暮らしを楽しめるよう努めている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を聞き医療機関を受診している。服薬支援ロボを導入することで薬局、薬剤師との連携も出来ている。	受診付添いは職員が行い、必要に応じて家族の協力も得ながら行っています。受診情報は専用のノート等で共有、家族にも手紙や電話で連絡しています。また、訪問歯科診療もあります。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常でとらえた情報や気づきを看護師に相談し個々の利用者が適切な処置や受診を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ホームでの生活している間の症状や状態を情報提供し医療機関からも治療計画等の情報を受け方針を共有する体制を整えている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応にかかる指針は整備されており、重度化した場合や終末期のあり方について早い段階から家族医療機関と話し合いを行い方針を共有する体制を整えている。	看取りは実施していませんが、急変の看取り事例もあります。終末期には家族やかかりつけ医と連携し、職員も統一した方針で取り組んでいます。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命講習の参加や勉強会を行い急変時や事故発生時に備え初期対応の実践訓練を行っている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、昼夜問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけている。また、町内会長を通して地域との協力体制を築いている。	隣接する同法人の事業所と合同で火災を想定した避難訓練を実施しています。事業所は地域住民の避難場所にもなっており、地域との連携も図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ゆっくり丁寧に言葉を選び話しかけるよう心掛けています。	一人ひとりの状態に適した言葉かけを重視し、委員会等で話し合いながら尊厳を大切にしながら取り組まれています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で整髪や髭剃りしたり、好きな洋服を選び身につけたり出来るよう支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな食べ物は他の食材にしたり、一人一人に合わせている。また、一緒に下ごしらえや盛り付けなどの調理をしたり、配膳や下膳、片付けなど一人一人が出来ることを行い、食事が楽しみになるよう支援している。	希望のメニューを聞いたりする他、おやつの中には一緒におはぎを作る、抹茶を点てる、敷地内の梅を採りジュースを作る等して楽しんでいます。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表にておおよそのカロリーやバランスを把握できている。食事量・水分量は記録し不足な量は補えるよう支援している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。自分で出来ない方には洗面所に誘導しそれぞれの力に応じた支援を行っている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録・把握しその情報を職員間で共有しトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	なるべくトイレで排泄出来るよう、利用者の行動を見ながらそれとなく誘導しています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水便補給や散歩、体操など運動を取り入れている。最終排便を確認し看護師に報告、便秘薬や坐薬の併用で予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人の状態に合わせて支援を行っている。	週4～5回入浴されている方もおり、体調を見ながらなるべく希望に添えるよう支援されています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人、その状況に合わせて安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局・薬剤師から薬の説明を受け、各自のお薬情報などで効能や注意を確認している。誤薬がないよう声出し確認し服薬支援を行っている。薬による症状の変化がないか観察に努めている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を活かし役割を持てるよう支援している。お酒を飲む機会や得意の裁縫や家事を行ったり外気に触れたり楽しみや気分転換が出来るよう支援している。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や親せき等の協力を得て自宅や床屋に出掛けたり、施設敷地内の屋外で散歩や花見など行き気分転換できるよう支援している。	ここ数年出来なかった外出支援や、外泊も家族の協力を得ながら実施されています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る利用者はお金を所持している。他の方に関しては預り金として預かり必要時に使用できるように支援している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温・温度を調節し季節に合った飾りつけをしている。こまめに掃除し清潔に心地よく過ごせるよう配慮している。	広い廊下にはテーブル、椅子が置かれ、家族や友人との面会の場にもなっております。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやイス、畳があり思い思いに過ごせるよう配慮している。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談し、自宅の部屋と同じ家具の配置にしたり、自宅で使っていた椅子やテーブル、写真などを置き安心して過ごせるよう工夫している。	家族の写真を飾ったり、テレビを居室でゆっくりと見ている方もいます。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やホーム内には手すりがあり、歩行時につかまって歩けるようになっている。トイレには「トイレ」と表示し分かり易くし自立した生活が遅れるよう工夫している。		